

一〇一五年五月九日

クリスタルビルは空色夏来る  
声高に響く木遣りや夏祭

一〇一五年五月八日

路地だれも通らぬ今宵おぼろ月  
神鏡に吾の顔映る新樹光  
風五月筆の走りの良き日なり  
細波に溺れさうなる早苗かな

一〇一五年五月七日

読みすすむ聖書日課や窓若葉

日傘閉ぢ風の八橋渡りけり  
初節句嬰は上座で眠りをり  
初孫を祝ふ幸せ子供の日

一〇一五年五月六日

風鈴の鳴りはじめたる路地親し  
緑摘む女庭師の指やさし  
指折りて友の名告ぐる一年生

一〇一五年五月五日

谷渡る風に機嫌や鯉のぼり  
誰も来ずもてあましたる子供の日  
新緑の色に染まりし小川かな  
神奈備の杜を養ふ噴井かな

山康子  
山椒子

児が描く母は丸顔チューリップ  
万緑の山に響かせ鐘一打  
春水の影橋裏にあそびをり  
もとこ

一〇一五年五月四日

玉ねぎの匂ひ消へぬ手収穫日  
トロ箱の蛸は逃げ出しつつ耀らる  
鯉のぼり最上階のベランダに  
廃校の木造校舎燕来る

一〇一五年五月三日

嶋りのこだます雨後の杉美林  
入賞を逃し泣く子に柏餅  
四阿に満ち溢れたる新樹光

康子  
康子

康子  
康子

藤井  
藤井

毎日句会みのる選・一〇一五年五月一日